

ICCAE



news
No.5 2001.10.1

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成13年10月1日発行 第3巻 2号(年2回発行;通巻5号)

発行/〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~iccae/index-j.html>

e-mail:iccae@nuagrl.agr.nagoya-u.ac.jp

カンボジア王立農業大学・大学院 (RUA)の教育強化とICCAE

ICCAEは設立以来、カンボジア王立農業大学(RUA)と協力してRUAの教育強化の研究に取り組んでいる。2000年には、前号で報告したように、RUA学長補佐ヴィサルソック・タッチ氏を客員教授(I種)として招聘し、カリキュラムの共同研究に基づいて、国際基準に適合するように7項目の改善提案を行なった。これらの提案は、2001年度カリキュラムに導入された。カリキュラム改革は、カンボジア内の他の3大学1研究院にとっても急務であったが、なかなか具体化が出来ず、進展が見られなかったものである。これには国際機関の姿勢の問題があり、FAOを始めとする国際機関から1992年、1996年、1999年にカリキュラム改善が提言されたが、事実上、問題指摘のみの報告書が作成されただけで終り、これらの機関による具体的な改革や、実行は行なわれなかった。RUAは教育改革一

番手ということで、所轄官庁(農水省)のみならず文部省からも、他教育機関への先導役としての期待が寄せられている。

ICCAEは、RUAが作成した農学教育強化のマスタープランを確実に実現化するために、年度毎の具体的な達成目標を立てるなど必要な助言を行なっている。カンボジアにはRUAの他に2つの農業カレッジがあるが、これら農学教育機関に勤める209名(2000年現在)の教官のうちで、博士、修士号取得者は、9名、19名に過ぎない。2005年までには少なくとも50%の教官を修士号取得、ないしは同等の能力を有するレベルにするために、具体的な計画を立てる必要がある。その一環として香川大学・早川茂教授には、2001年10月、博士課程にRUAから1名を国費留学生として採用していただいた。

RUAはマスタープランに従い、2001年9月にカンボジアの大学として初の大学院修士課程を開設した。RUAに修士課程を開設する能力があるかどうかは、議論の余地があるが、カンボジア国家の威信がかかっており、ICCAEとしては、出来る限り修士課程にふさわしい制度と内容の構築に協力することが、現実にとり得る最善の道と判断した。ICCAEでは本年12月より3ヶ月間、ンゴブントアンRUA大学院初代院長を客員教授(Ⅲ種)として招聘し、日本を含む世界の大学院教育のあり方を共同研究し、RUAの大学院づくりに貢献したいと考えている。



写真：RUA卒業式に臨席した農水大臣
夫妻(中央前列)

写真：卒業生を見送るRUA在校生代表の女子学生

ICCAEが取り組み中のプロジェクト

ナミビア大学農学部強化支援計画

2001年8月上旬、ICCAEの門平助教授が、国際協力事業団（JICA）の「ナミビア大学農学部強化支援計画」に係わる調査団のメンバーとして、ナミビア大学農学部を訪問した。JICA本部アフリカ課ナミビア国担当者、JICA南アフリカ事務所ナミビア国担当者と3名よりなる調査団は、同計画に関する協力の進め方についてナミビア側と協議し、合意を取り付けた。これにより、ナミビア大学農学部で、農業研究、技術開発を主体的に実施する能力を持つナミビア人教官を育てることを目標に、2001年度から2年間の協力が始まることになった。

この期間中に、長期専門家1名（協力企画、任期2年間）、作物生理、養鶏、統合環境科学の3分野に関する短期専門家各1名が、毎年1～3ヶ月間の任期でナミビアに派遣される。計画には、ナミ

ビア人カウンターパートが、日本人専門家の研究室（日本国内）で3ヶ月間の研修を受けることも、織り込まれている。



写真：ナミビア大学副学長室で「強化支援計画」の合意書にサインを交わす農学部長とJICA調査団団長

アフリカ人づくり拠点（AICAD）プロジェクトの現況

JICAのアフリカ人づくり拠点（AICAD）プロジェクトは、昨2000年10月に黒河内・元タンザニア大使を委員長とするAICAD運営委員会が発足し、引き続き12月には同国内（支援）委員会が発足した。ICCAEからは北川教授が、農学分野からの委員として国内委員会に参加している。AICADプロジェクトのケニアでの活動は、昨年8月、2名の専門家（プロジェクトリーダーと調整員）の現地着任で開始された。

本年1月末に、ケニアの首都ナイロビでケニア、タンザニア、ウガンダの3ヶ国、8国立大学の（副）学長クラスら

が集まり、AICADプロジェクトの実施が正式に合意された。この会議には、ICCAEから北川教授が参加した他、農学分野の短期専門家としてICCAEが推薦した日大・半澤和夫助教授も参加した。

北川教授は同会議参加後、3月中旬まで2ヶ月間ケニアとタンザニアに滞在し、ケニア国内5大学とタンザニア国内2大学を歴訪して、各大学の施設状況やAICADプロジェクトに対する基本的な関心の度合いを調査した。

本年4月はじめから、ICCAEの推薦に基づいて、山本禎紀広島大学名誉教授が、農学分野の長期専門家として1年間の任期で、ナイロビのAICAD事務局に赴任している。

熱帯・亜熱帯地域の野外研究活動にかかわる健康管理セミナー

ICCAEでは本年6月28日、熱帯・亜熱帯地域で野外研究活動にかかわりを持つ（もしくは、関心を持つ）名古屋大学全部局の教職員・大学院生・学生を対象に、「熱帯・亜熱帯地域における健康管理セミナー」を大学院生命農学研究科第10講義室で開催した。

セミナーでは、愛知県衛生研究所・宮崎豊所長が、国別、時代別にみた各種ワクチンの解説、重要な疾病の予防と罹患のリスク・アセスメント、さらにマラリア予防薬の服用の仕方など、TPOを念頭においた健康管理について講演した。それに続いて、農林水産省動物検疫所名古屋支所・守野繁検疫課長および同省名古屋植物防疫所・石本征夫調整指導官が、各検疫所の

業務の紹介と、日本に持ち込み可能な動植物・食品の種類や書類上の手続きについて説明した。

本セミナーには、生命農学、国際開発、文学の各研究科の教官・大学院生を中心に24名が参加した。



ICCAE 2001年度オープンセミナー開催

場所：大学院生命農学研究科 大会議室

第1回オープンセミナー

日時：5月22日(火) 16:30~18:00

演題：熱帯植林資源の利用の現状と将来
—インドからの視点—

講師：バート博士 (Dr. K.M. Bhat; インド・ケララ州
森林科学研究所木材科学部長)

ICCAEの客員研究員として滞在中のバート博士が、熱帯植林地から生産される木在資源の利用について、インドに重点をおいて話された。現在の重要な研

究課題として、小規模・小径木の樹木生産に適応した木材技術の開発と技術者訓練方法の確立があげられる、と強調された。大



大学院生や学生、教官ら28名が参加し、インドの森林所有形態についてなど、熱心な質疑が行われた。

第2回オープンセミナー

日時：7月10日(火) 16:30~18:00

演題：発展途上国の木材科学研究・養成ネットワークづくりの新たな展望

講師：バート博士 (Dr. K.M. Bhat; インド・ケララ州
森林科学研究所木材科学部長)

第1回に引き続きバート博士が、発展途上国の木材科学研究や同分野における専門家養成のため

のネットワークづくりについて、講演された。地域のネットワーク形成の成功例として、FORSPA (アジア-パシフィック版森林研究支援プログラム) とINBAR (国際竹・籐ネットワーク) の2つが紹介され、ICCAEが効果的な訓練ネットワークを形成する中核の役割を果たすべきだという、新たな展望が述べられた。大学院生や学生、教官を中心に24名が参加した。

客員研究員紹介

稔り豊かなICCAEでの3ヶ月

インド・ケララ州森林科学研究所木材科学部長 (Ph.D) K.M.バート
(任期：2001年4月20日~7月19日)

私の名古屋大学ICCAE滞在の3ヶ月間は、日本の木材科学分野の研究者たちと親しく意見交換する機会が持てたこと、横浜のITTO (世界木材貿易機構) を訪問して東南アジア諸国の研究機関とのネットワーク強化の糸口がつかめたこと、ICCAEスタッフをはじめ多くの友人たちから、日本の伝統的な温かいもてなしを受けて心くつろいだことなど、実に稔り豊かな時間でした。

私の研究課題は「木材科学分野における発展途上国の専門家育成用プログラムの開発」で、木材科学分野における人づくり国際教育協力を発展させるため、インドと日本の大学/試験研究機関間でのコンソーシアム形成に関して、ICCAEが果たすべき役割について

検討することを目的とするものでした。幸い、私はこの課題に沿った研究成果を研究レポートとして纏め上げることができ、ホッとしています。

ICCAEが近い将来、私の提案したインド-日本の2国間訓練計画を発展させ、木材科学分野で途上国向け専門家養成のネットワークを開発する取り組みに成功されるよう、期待しています。



略歴 1950年生まれ。1972年マイソール大学大学院修了(植物学修士)。1979~1981年フィンランド国立ヘルシンキ大学大学院農林学研究所に学び、博士学位取得。1981年~ケララ州森林研究所研究員。1996年~現職。2000年8月国際森林科学研究機関連合(IUFRO)世界大会で学術賞を受賞。2000年~IUFRO第5部会(木材科学分野)副部会長。

ナミビア大学農学部講師 Ms. N. パトリシャ ペトルス
(任期：2001年7月24日~10月31日)

本センターでは、国際協力事業団(JICA)と協力して、「ナミビア大学農学部強化支援計画」の立案を行ってきた。この取り組みは、既にJICAとナミビア大学農学部間における協力の進め方に関する協定調印(本年8月)と、それに基づく本年度からの実施(開始:2002年1月予定)までに至っている。

これを踏まえて、本センターでは、ナミビア大学農学部のカウンターパートの一人であるペトルス氏(Ms. Petrus)を、客員教授のポストを利用して招聘した。ペトルス氏の専門分野は家禽育種学であり、3ヶ月間の滞在

期間中に「ナミビアの在来鶏の遺伝分析とそれを利用した育種」に関する研究計画を立案し、協力計画期間(2年間)中の実施を予定している。そのため、北海道大学、(財)日本生物科学研究所、(独)農業生物資源研究所等での研修・見学を行い、日本国内の専門家との研究支援ネットワーク作りを進めている。



(武田 記)

略歴 1964年生まれ。1993年ナイジェリア国ニユッカ大学卒業(農学士)。1997年~1998年フランス国際交流センター獣医部門卒業(理学修士)。1994~1998年ナミビア国農業省農業普及官。1999年~現職

着任のご挨拶

AICADプロジェクトJICA長期専門家 山本 禎 紀

アフリカ人造り拠点 (AICAD) プロジェクトの農学領域長期専門家として、4月10日から1年の契約でやってきました。広島大学に職を得て定年までの34年間、畜産学の家畜管理学、その中でも環境生理学を専門にして、教育と研究にあけくれする日々を過ごしました。今回、名古屋大学農学国際教育協力研究センター (ICCAE) の公募で選ばれたことに責任を感じていますが、農学領域は、名古屋大学のICCAEが組織的にバックアップする全国組織を作っており、むしろ解決すべき問題や専門家に相談できる質問を取り揃えることが、長期専門家の課題だと認識しています。1年間という短い期間ですが、誠実に生活し、しっかり課題に取り組み、現地スタッフとの信頼関係を築くことを目標としています。よろしくご支援ください。

(2001/4/19記)



GIS研修コース (第2回) を実施

本センターでは、本年8月15日～9月11日の間、国際協力事業団 (JICA) 中部国際センターと協力して、平成13年度一般特設「GIS (地理情報システム) による天然資源・農業生産物の管理」研修コース (第2回) を実施した。研修生は、カンボジア、エルサルバドル、パラグアイ、フィリピン、ザンビアの5ヶ国から1名づつ (男性3名、女性2名) で、いずれも農林水産省などの官庁や大学に勤める、27歳から38歳までの中堅職員であった。本研修は、GISのフリーソフト「GRASS」を主なツールとしている点が特徴で、研修生が習得した知識を帰国後に活用・普及しやすいように配慮されており、研修生から大変喜ばれた。

JIRCASと人材DBの意見交換

独立行政法人化して間もない国際農林水産業研究センター (JIRCAS) から、去る7月18日、研究企画担当者がICCAEに来訪され、一昨年度にICCAEが開発した人材データベース (DB) の内容や活用方法について、意見交換した。JIRCASでは今年度中の目標としてDB構築を予定しているが、今後、両者間で相互に人材データの検索を要請しあう可能性もある。

榎原大悟ICCAE研究員が JICA短期専門家としてカンボジアへ出張中

ICCAEの榎原大悟氏 (研究機関研究員) が、JICA短期専門家として、カンボジアへ出張中。

- 派遣期間：2001年6月11日～12月8日
- 派遣先機関：カンボジア王立農業大学 (RUA)
- 指導科目：高等農業教育強化
- 業務内目：①カンボディア農業高等教育の現状調査と支援計画立案
②RUAの教育強化アドバイス

JICA専門家育成個人研修員の研修受入れ

ICCAEでは今年度、JICAの要請により、JICA専門家育成個人研修制度に基づく研修員の研修受入れを行った。吉井氏は本年9月現在、セネガルで研修を継続中である。

- 受入れ研修員：吉井健一郎氏
- 身分：JICA専門家育成個人研修員
- 受入期間：2001年4月9日～5月31日
- 指導教官：竹谷裕之ICCAEセンター長
- 研究テーマ：発展途上国普及事業のあるべき姿

名古屋大学農学国際教育協力研究センター主催 第3回オープンフォーラムの開催予告

日時/2001年12月7日(金) 午後～8日(土) 共催/(財) 愛知県国際交流協会
会場/あいち国際プラザ：アイリスルーム [名古屋市中区三の丸2-6 愛知県三の丸庁舎2階]

テーマ 21世紀における国際協力のあり方 —日本のODAを考える in 名古屋—

12月7日(金) 13:00～18:00

●来賓挨拶 (文部科学省国際交流政策室 [予定])

講演：「ODAの成果と今後の改革方向」

●わが国のODAはどのように展開してきたか

小浜 裕久 (静岡県立大学 教授)

●開発援助手法の問題 木村 洋 (国連地域開発センター 所長)

●21世紀のODA改革案

市川 博也 (上智大学 教授・第2次ODA改革懇談会委員)

●農業技術普及分野における社会人教育

Prof.S.Akuamoah-Boateng (ケープコースト大学 [ガーナ])

●アフリカはどこへゆく—農業の再建と人づくりを目指して

石 弘之 (東京大学 教授)

12月8日(土) 10:00～17:00

講演と討論：「アフリカ農業協力から見たODA
—人づくりの視点から—」

午前 講演

●特別講演：日本の大学の国際協力における役割
—ナミビアからの期待—
Prof.P.H. Katjavivi (ナミビア大学 (副)学長)

●講演：対アフリカ協力の課題と今後の方向性
橋本 栄治 (JICAアフリカ・中近東・欧州部 部長)

午後 事例報告

国連世界食糧計画 (WFP), (財) 国際開発センター
国際農林水産業研究センター (JIRCAS) など

●総合討論

(同時通訳付・定員先着100名)

会場への道順等 地下鉄名城線「名古屋市役所」駅5番出口より徒歩5分 Tel: 052-961-8746 <http://www.pref.aichi.jp/aia/>